

10分間のスピーチで言い足りなかったことがたくさんありましたので補足し報告とさせていただきます。

恒例第19回目サンディエゴ日本語コンテストは、来る3月20日（日曜日）に『ラホヤ・リフォード図書館』にて開催いたします。過去数年SDJBAの有志の方から景品のご協力をいただいておりますお礼申し上げます。

このコンテストは1996年、私がラホヤの私立高校で日本語のプログラムを育てていた年に第一回目のスピーチコンテストが始まりました。主催はJapan US Center（現在閉鎖）でサンディエゴ州立大学のアジア研究センター所長で著名な歴史学者の故Dr. Alvin Coox先生の奥様の久子さんがお始めになりました。現日本協会（JSSDT）はお二人が創立されたことも最近伺っています。残念ながらCoox先生は1999年に他界されその後久子さんがお一人でがんばって11年間続けられました。久子さんがご高齢のため2006年のコンテストを最後に退かれその後空白が2年ありましたが、2008年に私がセンターを立ち上げたことが偶然久子さんの知られるところとなりコンテストを引き継ぐご縁をいただき、今に至っております。その後このTachibanaセンターは結果的にこのコンテスト企画担当の実質ボランティア団体となりました。

私がどうしてこのようなイベントをお引き受けしているのかと申しますと、私自身がコンテストが大好きだからなのです。高校時代、大学時代、その後も楽しい体験（校歌作詞、作曲コンテスト、作詞入賞、作曲優勝、大学英語スピーチコンテスト、その後英文による創作ショートストーリーコンテスト優勝副賞フィリピン旅行、インターナショナルPoetry Contest優勝、その他）を経験しました。あの当時のわくわく感が今の原動力となっています。コンテストは元来楽しいものです。その後の私の知る生徒たちの足取りをみる時まざまにがんばり活躍をしているようでうれしい限りです。このイベントは日本語教育の発展に寄与しつつ常に小さな一歩を歩み続けております。

参加賞には夢がつまったものにできればと常に夢見ています。参加者のお持ち帰り袋はいっぱいにはなりませんのご協力いただければ大変ありがたく思います。

昨年2015年は地方大会としてはめずらしく大きな海外文化研修旅行賞をご用意できました。今年も学生たちに夢を与えられる可能性をうれしく思います。高校生の優勝者及び上位3位まではオーロラ全米大会への応募資格を得ることができ、この大会の優勝者は日本での本選へ進みます。

副賞、参加賞の協賛に関しては、どんなものでもありがたく福袋にいれさせていただきます。協賛にご賛同いただける方がおられましたら、nihongoganbatte@gmail.com（橘婦美子）までご連絡いただくとありがたく思います。

橘婦美子（サンディエゴ日本語コンテスト委員会代表）